

平成28年度 商工労働観光部 観光経済交流局運営プログラム自己評価・検証結果

<p><短期アクションプランの目標指標></p>	<p><やまがた創生総合戦略の数値目標></p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 来訪者数 4,500万人 (H28年度：4,581万人) ・ 宿泊者数 700万人 (H28：544万人) ・ 外国人来訪者数 15万人 (H28年：12.8万人) ・ 外国人宿泊者数 8万人 (H28年：8.8万人) ・ 酒田港国際定期コンテナ航路貨物量 15,000TEU (H28年：23,658TEU) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光消費額 210,000百万円 (H28年：204,818百万円) ・ 海外取引を行う県内企業数：216社 (H27：221社)

1 基本的考え方

観光立県山形の実現に向けて、県民の総参加と全産業の参加により、おもてなし山形県観光計画に掲げる施策を総合的かつ一体的に展開し、観光による交流人口の着実な拡大を目指す。

海外戦略に関しては、「山形県国際戦略（計画期間：平成27年度～31年度）」に基づき、重点地域に位置付けた台湾、香港、中国、ASEANを中心に、国際交流、経済交流、観光交流の一体的な推進を図りながら、成長するアジアとの交流・取引を拡大し、本県産業の安定的な発展に結び付けていく。

2 施策体系（施策名称及び目標等一覧）

施策番号	重点施策の名称	主な取組み内容	重点施策の目標及び実績 (総合戦略のKPI)	目標の達成状況	短期APにおける位置づけ 総合戦略における位置づけ
1	地域資源を活用した観光交流の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『『山形日和。』観光キャンペーン』の開催 ・ 魅力ある地域づくりの推進 ・ 戦略的な誘客施策の展開 ・ 観光産業の振興による地域活性化 ・ 外国人の来訪促進や近隣県との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 来訪者数：4,500万人 (H28年度：4,581万人) ○ 外国人来訪者数：15万人 (H28年：12.8万人) ○ 観光消費額：210,000百万円 (H28年：204,818百万円) [創] 	<p>達成</p> <p>概ね達成</p> <p>概ね達成</p>	<p>テーマ3－施策4－(1)－</p> <p>①観光・交流地域づくり活動の推進と観光人材の育成</p> <p>②多様な観光スタイルに応える受入態勢の整備促進</p> <p>テーマ3－施策4－(2)－</p> <p>①山形の魅力を伝える観光交流・交流プログラムの創出・展開</p> <p>②海外からの誘客の促進</p> <p>基本目標1－(2)－</p> <p>①インバウンドをはじめとした交流拡大に向けた、山形の魅力を高める受入態勢を整備</p> <p>②情報発信の強化や近隣県との</p>

					<p>連携などにより海外等からの観光誘客を促進</p> <p>③山形の魅力を活かした先導的ツアーを推進</p> <p>④山形の豊かな“食”を活かして交流を拡大</p> <p>基本目標4－(2)－</p> <p>②雪を活用して冬の観光を拡大</p> <p>基本目標4－(4)－</p> <p>②県境を越えて広域連携を促進</p>
2	国際戦略の展開	<ul style="list-style-type: none"> 企業の海外展開のための人材確保等への支援 県産品輸出促進のための現地商談会等の開催 酒田港の新たな貨物の掘り起こしと航路拡充や機能強化による利便性向上 	<p>○国際交流サポーター登録者数：590人（H28年度：573人）</p> <p>○海外取引を行う県内企業数：216社（H28年：調査中、H27年：221社）[創]</p> <p>○酒田港国際定期コンテナ航路貨物量：30,500TEU（H28年：23,658TEU）</p>	<p>概ね達成</p> <p>達成</p> <p>未達成</p>	<p>テーマ3－施策3－(2)－</p> <p>①グローバル化に対応した県内企業の海外取引の拡大</p> <p>②国際交流の促進</p> <p>③国際物流の拡充への取組みの推進</p> <p>基本目標1－(3)－</p> <p>②自動車、航空機、ロボット等の成長期待分野への参入促進などにより「しごと」を創出</p>

		商工労働観光部観光経済交流局
施策番号	重点施策の名称	重点施策の目標（総合戦略のKPI）及び実績
1	地域資源を活用した観光交流の拡大	○来訪者数 4,500万人（H28年度：4,581万人） ○外国人来訪者数 15万人（H28年：12.8万人） ○観光消費額 210,000百万円（H28年：204,818百万円）〔創〕

施策の短期APにおける位置付け	やまがた創生総合戦略における位置付け
テーマ3－施策4－（1）－ ①観光・交流地域づくり活動の推進と観光人材の育成 ②多様な観光スタイルに応える受入態勢の整備促進 テーマ3－施策4－（2）－ ①山形の魅力を伝える観光・交流プログラムの創出・展開 ②海外からの誘客の促進	基本目標1－（2）－ ①インバウンドをはじめとした交流拡大に向けた、山形の魅力を高める受入態勢を整備 ②情報発信の強化や近隣県との連携などにより海外等からの観光誘客を促進 ③山形の魅力を活かした先導的ツアーを推進 ④山形の豊かな“食”を活かした交流を拡大 基本目標4－（2）－②雪を活用して冬の観光を拡大 基本目標4－（4）－②県境を越えて広域連携を促進

平成27年度までの主な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・山形デスティネーションキャンペーンの開催 ・『山形日和。』観光キャンペーン（プレDC・ポストDC）の展開 ・滞在型観光の推進 ・冬期間の観光誘客の強化 ・観光地域づくりの促進 ・観光人材の育成 ・「おもてなし山形県観光計画」の策定及び推進 ・「山形県国際戦略」の策定及び推進 ・台湾、香港、中国、ASEAN諸国を重点地域としたプロモーション展開 ・台湾、ASEAN諸国等へのトップセールスによる市場開拓 ・「日台観光サミットin山形」の開催 ・旅行博等への出展 ・近隣県等と連携した現地エージェント等の招請 ・チャーター便誘客の強化 ・外航クルーズ船の誘致
-------------------	---

施策の評価と今後の推進方向等

〔平成28年度の取り組みの評価〕

- 山形DCの展開により得られた夏の観光キャンペーンのノウハウと昨年度より実施した『山形日和。』冬の観光キャンペーンとをつなぎ、通年観光を図るため、『山形日和。』春の観光キャンペーンを4月9日から6月30日まで開催した。デスティネーションキャンペーンで取り組んだ「山形で過ごす1日」をテーマとして、本県を訪れていただくお客様に、朝から夜まで山形を味わい、楽しんでいただきたいとの視点にたち、「朝」「昼」「夕」「夜」の時間軸で、地域資源のさらなる磨き上げを行い、ガイドブックやポスター、HP等での情報発信により観光誘客を進め、加えて、「産業観光」や「美術館・博物館探訪」、「縁結び」、「農観連携」等の誘客テーマを新たに設定し、山形の魅力を発信した。
- 観光者数が落ち込む冬期間の観光誘客の底上げを図るため、昨年度から引き続き『山形日和。』冬の観光キャンペーンを12月1日から2月28日まで開催するとともに、JR東日本による東北6県を重点販売地域に指定した「行くぜ、東北。SPECIAL冬のごほうび」と連携した観光誘客への取り組みを行った。また、首都圏JR主要駅（東京・新宿・池袋）のADビジョンによる広報を1月の一ヶ月間及び首都圏JR8路線での車内モニターによる広報を一週間実施するとともに、全国女性誌「CLASSY」に観光PR記事を掲載するなど冬期間の観光誘客に取り組んだ。

- 春の観光キャンペーンでは、さくらんぼの本格的なシーズン前の5月下旬に、首都圏、仙台、北海道のJR主要駅及び東北中央自動車道SA・PAにおいて誘客キャラバンを実施したほか、冬の観光キャンペーンでは、9月に名古屋、キャンペーン直前の11月に首都圏主要駅での誘客キャラバンを実施した。
- 2月に開催した「第2回やまがた雪フェスティバル」の来場者数は19万1千人（前回は3万人増）、経済波及効果は7億7,421万円（前回は6,374万円増）となり、観光者数及び観光消費額の拡大につながった。
- 山形県教育旅行誘致協議会において、知事トップセールスを都内、副知事トップセールスを大阪市内で実施し、新たな修学旅行の実現につなげた。
- 本県を訪れる外国人旅行者は、トップセールスを始めとする誘客プロモーション、外国人に訴求力の高い雪を活用した戦略的な情報発信、東北観光復興対策交付金の活用による情報発信や受入態勢整備などの効果により、平成28年は統計を取り始めてから過去最多となった。また、外航クルーズ船の誘致活動により、平成29年8月の酒田港初寄港が決定した。

〔今後の推進方向等〕

「おもてなし山形県観光計画」や第3次山形県総合発展計画短期アクションプランに基づき、次の方向で取り組む。

（1）全ての人々が快適に旅行できる環境の整備

- 快適かつ安心して滞在できる観光地づくりに向けて、高齢者や障がい者、外国人など誰もが安心して利用できる観光地の公衆衛生施設（トイレ）や宿泊施設等の整備の支援、観光地までの移動手段（二次交通）の確保など、受入環境の整備等を推進し、本県を訪れる観光者の満足度の向上を図る。

（2）観光資源の高付加価値化と戦略的誘客の強化

- 豊かな食や温泉、ユネスコ無形文化遺産登録の新庄まつり山車行列や日本遺産認定の出羽三山の精神文化、山岳、雪、滝、景観、紅花等、本県の魅力を活かしたツアー造成の促進を図る。
- 国際会議や学会、大規模イベント、誘致強化を図る。教育旅行については、国内外から山形県教育旅行誘致協議会を核として、本県の特徴ある資源を活かし誘致促進を図る。
- 県民の「おもてなしの心」をさらに育み、国内外における地域別、年齢別などの戦略的な観光PRを図るとともに、冬場の誘客拡大に向けて「やまがた雪フェスティバル」の拡大展開と県内各地の雪祭り開催への支援を行い、年間を通じた観光誘客に取り組み、観光者数及び観光消費額の拡大につなげる。
- 「日本一さくらんぼ祭り」等の季節のイベントによる本県魅力の発信を行う。
- JR東日本が展開する大型観光誘客キャンペーンと連携し更なる誘客の拡大を図る。また、首都圏等での広報・宣伝により本県の認知度の向上を図る。

（3）観光産業の競争力強化

- 観光立県山形の実現に大きな役割を担う観光産業の中核的人材の育成を図るとともに、地域や観光関連企業、大学、金融機関などの多様な主体による観光地域づくり活動を促進する。

（4）インバウンド推進による交流人口の拡大

- 県国際戦略に基づき、平成32年に外国人観光客30万人の目標に向け、重点地域である台湾、中国、香港などの東アジア地域、成長著しい東南アジア地域、継続市場の韓国や豪州、新規市場の欧州・米国に対して、東北観光復興対策交付金を積極的に活用し、東北観光推進機構や近隣県等とも連携し、旅行博等への出展や現地旅行会社等の招請、動画サイトや現地テレビ番組を活用した情報発信等、積極的なプロモーションを展開する。
また、日本遺産に認定された出羽三山やユネスコ無形文化遺産登録の新庄まつり等を核とする広域周遊ルートの構築などにより滞在の長期化やリピーター化に結びつけ、観光消費額の向上を図る。
さらに無料Wi-Fiの整備や多言語表記の導入、おもてなし研修など、県内を快適に周遊できる環境整備を支援する。

- 現地観光コーディネーター等を活用し、本県を訪問する旅行商品の造成やチャーター便運航を働きかけるとともに、山形県ASEAN戦略アドバイザーからの助言や、シンガポール駐在職員を活用しながら、本県の知名度向上のための情報発信等を行い、観光誘客を図る。

- 多数の外国人観光客の来訪による経済効果が期待できる外航クルーズ船について、国、県、市町村等が一体となり万全の受入環境整備を進め、寄港拡大に取り組む。

〔平成28年度の主な取組み内容〕

- ・「山形日和。」春の観光キャンペーンの展開 (①)
- ・「山形日和。」冬の観光キャンペーンの展開 (①)
- ・魅力ある地域づくりの推進 (②)
- ・戦略的な誘客施策の展開 (③)
- ・観光産業の振興による地域活性化 (④)
- ・外国人旅行者の来訪促進や近隣県との連携 (⑤)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①	「山形日和。」春の観光キャンペーン	「山形日和。」冬の観光キャンペーン	「山形日和。」冬の観光キャンペーン	「山形日和。」冬の観光キャンペーン
	日本一さくらんぼ祭りの実施		やまがた雪フェスティバルの実施	
②	トイレ整備など観光地域づくり活動への支援、歓迎案内表示の整備			
	広域タクシープラン及び期間限定バス運行への支援など二次交通の充実			
③	旅行者のニーズ調査、観光流動の動向調査			
	誘客キャラバンの実施 (首都圏、東北、北海道)		観光PR推進事業の実施	
			誘客キャラバンの実施 (首都圏、名古屋、東北)	
④	山形観光アカデミーと連携した次世代観光人材の育成			
	金融機関・産業界等と連携した持続可能な観光地域づくりの支援			
	山形観光エキスパート検定(仮称)の検討			
⑤	東北観光復興対策交付金の活用による多様な情報発信や受入態勢整備の促進			
	国内外での情報発信、現地プロモーションや旅行商品造成、教育旅行への働きかけ			
	東北観光推進機構や近隣県と連携し、合同プロモーションや海外メディア等の招請			
	外航クルーズ船の誘致活動の展開・受入態勢の構築			

		商工労働観光部観光経済交流局
施策番号	重点施策の名称	重点施策の目標（総合戦略のKPI）及び実績
2	国際戦略の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○国際交流サポーター登録者数 590人 (H28年度：573人) ○海外取引を行う県内企業数 216社 (H27：221社) [創] ○酒田港国際定期コンテナ航路貨物量 30,500TEU (H28:23,658TEU)

施策の短期APにおける位置付け	やまがた創生総合戦略における位置付け
テーマ3－施策3－(2)－ ①グローバル化に対応した県内企業の海外取引の拡大 ②国際交流の促進 ③国際物流の拡充への取組みの推進	基本目標1－(3)－② 自動車、航空機、ロボット等の成長期待分野への参入促進などにより「しごと」を創出
平成27年度までの主な取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ○国際戦略の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「山形県国際戦略」の策定（平成26年度） ・海外拠点での活動支援体制の再構築 <ul style="list-style-type: none"> ASEAN：ASEAN展開支援の窓口となる駐在員をシンガポールに配置するとともに、経済・観光交流などに幅広い知見を有するASEAN戦略アドバイザーを委嘱（平成25年度） 県産品の輸出拡大を図るためASEAN貿易コーディネーターをシンガポールに配置（平成27年度） 中国：上海等中国南部の大消費地での販路開拓等を図るため、上海に日中経済交流アドバイザーを配置（平成27年度） 韓国：人的ネットワークが形成され、また、民間ベースでの交流の取組みに一定の道筋ができたことなどからソウル事務所を廃止し、経済貿易コーディネーター及び戦略的情報発信員を配置（平成27年度） ○国際交流の促進 <ul style="list-style-type: none"> ・姉妹・友好交流先（米国コロラド州、中国黒龍江省、インドネシア・パプア州）、海外県人会との周年事業や技術研修員受入れ、友好・親善交流の実施 ・インドネシア・パプア州姉妹県州締結20周年記念事業（平成26年度）の実施、中国黒龍江省友好県省締結20周年記念事業・ブラジル県人会設立60周年記念事業（平成25年度）への参加を通して友好交流を推進 ・イタリアのロムアルド・デル・ビアンコ財団と本県の情報財団のネットワークを通して発信するなどの覚書を締結（平成27年度）し、文化・国際交流等を促進 ○県内企業の海外取引拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・企業の海外展開の即戦力となる人材として留学生を育成している産学官の取組みへの支援を行うとともに、輸出支援体制を強化するため、(一社)山形県国際経済振興機構を設立（平成24年7月） ・台湾・香港など従来からの重点市場については、パートナーとの連携強化により県産品の定番化・ブランド化を推進 ・中国については、県ハルビン事務所を拠点として、情報収集や人脈づくりなどによる交流基盤の形成とハルビン商談会への出展などによる県産品の販路開拓を実施 ・ASEANなどの新規市場においては、現地展示会への出展等により、信頼できる輸出パートナーを発掘・確保するとともに、現地のニーズを踏まえた販売プロモーションなどを実施

- 酒田港の取扱貨物の拡大
 - ・ 釜山港と酒田港との輸送日数が最短で輸出は2日、輸入は3日という利便性、新規・継続利用荷主への助成制度の実施、港湾機能強化（コンテナヤードの拡張等）などをツールとした官民一体のポートセールスを実施

施策の評価と今後の推進方向等

【平成28年度の実施状況の評価】

- 国際交流については、ハルビン事務所開設5周年記念事業やコロラド州との姉妹県州30周年記念事業の実施、パプア州幹部の受入れ、台湾の高雄市及び宜蘭県との覚書の締結、技術研修員の受入れ、イタリアのロムアルド・デル・ピアンコ財団幹部を招いてのセミナー開催等により、交流連携の強化が図られた。
- 経済交流については、台湾・香港など従来からの重点市場や中国に加え、平成25年度から本格的な取組みを行っているASEAN諸国など、アジア地域における県産品輸出拡大の取組みにより、県内企業の海外取引の進展、県産品輸出継続などの成果が見られ、海外取引を行う県内企業数が着実に増加した。今後も、これまでの取組成果や各国のマーケットの状況等を踏まえながら事業を展開していくことが重要である。
- 酒田港については、これまでの官民一体となった戦略的なポートセールス活動や港湾機能強化の取組みの結果、中国航路増便等の国際定期コンテナ航路の拡充、大口荷主の貨物量増などにより、国際定期コンテナ貨物の取扱いが大幅に増加し、平成26年から3年連続で過去最高を記録した。更なる利用拡大とともに、コンテナ貨物拡大に向けた航路拡充、港湾機能強化等への取組みが求められている。

【今後の推進方向等】

「山形県国際戦略」に基づき、次の方向で取り組む。

- 多様な国際交流を進める中で山形県の国際人脈をつくり、確固たる信頼関係を構築しながら経済・観光交流につなげていく。また、海外との取引拡大や外国人旅行者の増加など、地域社会における国際化の対応が急がれている中で、それを担う人材が不足していることから、社会人や学生等を対象とした外国語学習機会の充実や多文化共生への取組みなど、グローバル人材の育成を推進する。
- 海外展開に取り組む企業に対しては、引き続き海外取引のための専門的助言や人材確保などの支援を行うとともに、特に県国際戦略において重点地域と位置付けた台湾、香港、中国、ASEANを柱に、これまでの取組成果や各国のマーケットの状況等を踏まえた戦略的な輸出促進事業を展開することにより、県産品の販路拡大を積極的に進めていく。
- 酒田港については、コンテナクレーン2台目の設置（H25.11）やリーチスタッカー3台目の設置（H27.11）、コンテナヤードの拡張（H28.11）など、更なる利便性向上が図られているところであり、これらを強みとして、県内のみならず県外企業をもターゲットとした積極的なポートセールスを展開し、新たな貨物の掘り起こしを図るとともに、既存航路の拡充、新たな航路開設の可能性の検討、港湾機能の強化等に努め、なお一層の利便性向上を図っていく。

〔平成28年度の主な取組み内容〕

- ・多様な国際交流の推進 (①)
- ・グローバル人材育成の促進 (②)
- ・企業の海外展開のための現地商談会等の開催 (③)
- ・県産品輸出促進のための現地商談会等の開催 (④)
- ・酒田港の新たな貨物の掘り起こしと航路拡充や機能強化による利便性向上 (⑤)
- ・「山形県国際戦略」の進行管理 (⑥)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
①	友好交流推進事業の実施 (中国黒龍江省、インドネシア・パプア州、米国コロラド州)			
	台湾・高雄市との覚書締結	台湾・宜蘭県との覚書締結	ビアンコ関連セミナーの開催 (LBT)	黒龍江省及び南米からの技術研修員を受入れ
②	外国語学習・国際理解教育の充実支援			
③	海外取引等の情報収集支援、海外展開の担い手確保支援、輸出支援体制・機能強化			
④	取扱パートナー発掘、商談会開催、現地プロモーション支援			
⑤	コンテナ貨物利用促進助成、官民一体となったポートセールスの展開、船社への航路拡充要請			
⑥	「山形県国際戦略」の進行管理			